

食生活や食料消費の実態・将来予測を踏まえた課題等の整理

資料 2 - 1

■ 調査の目的

- 「日本型食生活」とは、昭和50年代ごろの食事のことであり、ごはんを主食としながら、主菜・副菜に加え、適度に牛乳・乳製品や果物が加わった、バランスのとれた食事を指す（農林水産省HP「日本型食生活のすすめ」）
- 「日本型食生活」の減少を含め、現状のPFCバランス（タンパク質・脂質・炭水化物のバランス）は、理想的な形と比較するとくずれている状況である。
- このバランスのくずれは、社会構造の変化にともなうライフスタイルの変化が背景となり、食事状況・食事内容が変化したことに起因しているものと考えられる。
- 本調査においては、現在までの消費者の食生活、消費動向の変化を、公表データ及びアンケート調査により実態として把握したうえで、今後の社会構造等の変化から、将来の食料消費の将来像を予測する。
- 上記を踏まえ、望ましい食料消費のための課題と解決策を整理し、解決策が実行可能なものであるかの検証を行う。

Step1

食生活や食料消費の実態の把握
(5月:第1回検討会)

統計データ及び消費者へのアンケート調査により、実態を把握する。

- 公表データ（国勢調査、国民健康栄養調査等）報告
- 生活者アンケート調査（第1回）の設計の検討
- 将来予測の分析方針の検討

Step2

食生活や食料消費の将来予測の検討
(6月:第2回検討会)

Step1の結果に基づく将来予測の検討

- 食生活や食料消費の実態・予測調査・分析報告
- 調査・分析を踏まえた課題整理（中間とりまとめ）

Step3

食生活のバランスの向上のための施策の検討
(11月:第3回検討会)

Step2の結果に基づく施策の検討

- 食生活や食料消費の実態・予測調査・分析報告（最終）
- 調査・分析を踏まえた課題整理及び推進策の検討

Step4

施策の実行可能性の検証
(2月:第4回検討会)

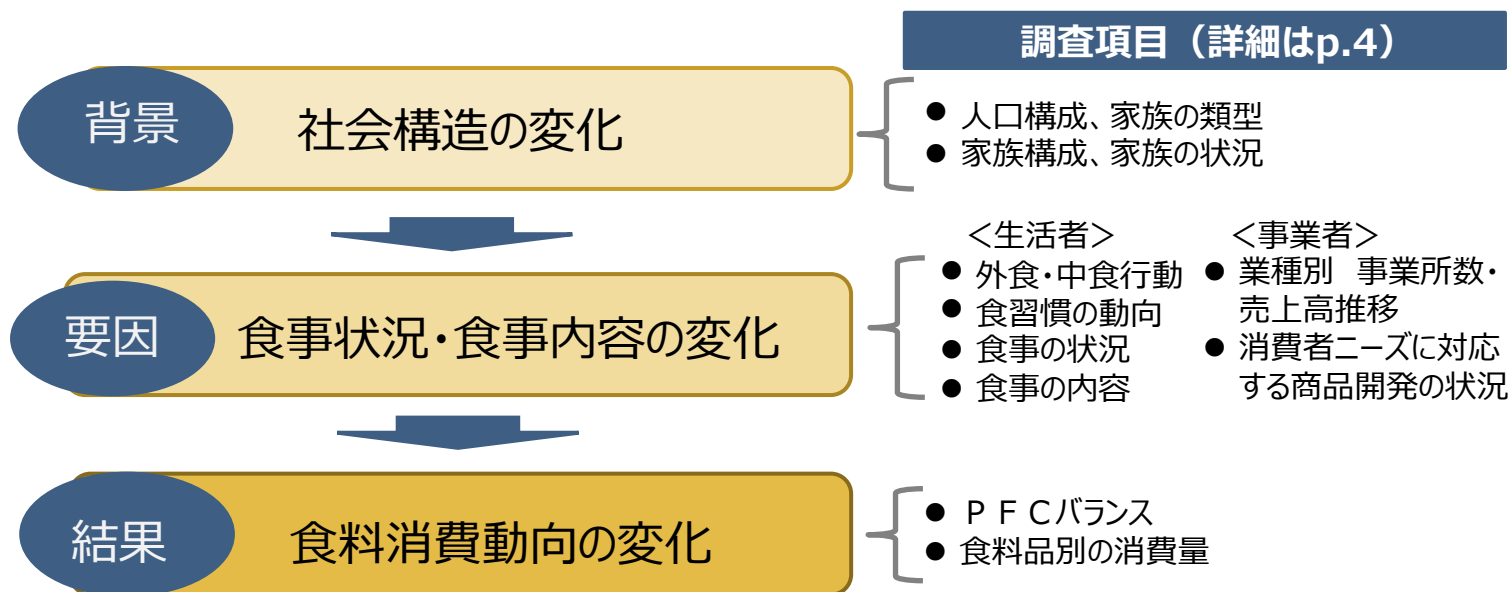
施策の実行可能性の検証

- 調査・分析を踏まえた課題整理及び推進策の提言（最終とりまとめ）

食生活や食料消費の実態・将来予測を踏まえた課題等の整理

■ 食生活・食料消費の実態把握について

- 現状、「バランスのとれた食生活」が理想的な形と比較すると崩れている状況について、公表データの収集、及び消費者アンケートを実施することで実態の把握を行う。
- 「バランスのとれた食生活」が崩れてきている理由として、「社会構造の変化にともなうライフスタイルの変化が背景となり、食事状況・食事内容が変化したこと」との仮説を立て、その背景・要因・結果の根拠となるデータについて、収集・整理を行う。
- それぞれについて、収集・整理を行うデータは、下図の通りとする。



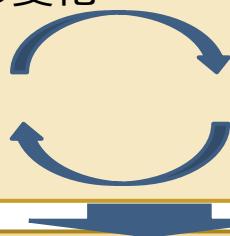
食生活や食料消費の実態・将来予測を踏まえた課題等の整理

■ 調査の前提となる仮説

1) 社会構造の変化に伴うライフスタイルの変化

■ 食べる側のライフスタイル

- ✓ 家事の役割分担が変化
- ✓ 家族の生活時間配分が変化



■ 産業側の生活者ニーズへの対応

- ✓ 簡略化、短時間化が可能な商品・サービスの提供
- ✓ 家事のアウトソーシング

2) 食生活・食事内容の変化

■ 食事の合理化（簡略化・短時間化）

- ✓ ごはんを基本とした一汁三菜の日本型食事スタイルが減少
- ✓ 外食・中食の食事構成比が増加
- ✓ 生鮮食品を入手し、家庭で調理をして食べる人の減少

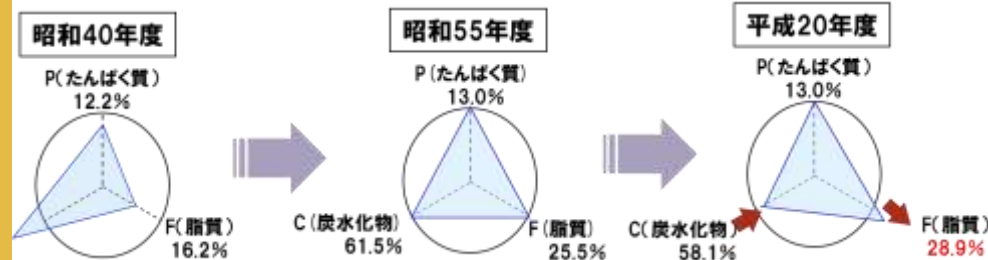
■ 食生活・食事内容の状況

- ✓ 家族ばらばら（空間、時間、食べるもの）の食事をする家庭の増加
- ✓ 孤食の増加

3) 食料消費動向の変化

■ P F Cバランスの崩れ

- ✓ 米消費量の減少
- ✓ 畜産物・油脂類消費の増加



食生活や食料消費の実態・将来予測を踏まえた課題等の整理

■ 調査項目と調査対象とする対象データ

実態把握・課題整理のための調査項目と調査対象とする対象データは下記のとおりである。

● 公表データ

調査項目分類	調査項目	具体的なデータの項目	対象データ
社会構造	・ 人口構成	・ 年齢別割合	・ 国勢調査
	・ 家族の類型	・ 世帯の家族類型	
食生活 ・ 食事内容	・ 食事の状況	・ 朝、昼、夕別にみた1日の外食・中食の食事構成比	・ 国民健康・栄養調査
	・ 外食・中食事業者の状況	・ 業種別 事業所数・売上高推移	・ 商業統計
食料消費	—	・ 食料消費支出	・ 家計調査
	・ 栄養摂取の動向	・ 栄養素等摂取量 ・ 食品群別摂取量	・ 国民健康・栄養調査
	・ P F C バランス	・ 総カロリーに占めるタンパク質、脂質、炭水化物の割合	・ 食料需給表（供給側） ・ 国民健康・栄養調査（消費側）

食生活や食料消費の実態・将来予測を踏まえた課題等の整理

- 生活者アンケート（具体的なアンケート項目は資料2-3参照）

調査項目分類	調査項目	具体的なデータの項目	対象データ
社会構造	家族の種類	- 家族の就業状況（フルタイム、パートタイム）等 - 就業時間	生活者アンケート調査
食生活 ・食事内容	食事の状況	- 日常生活で食事を作る人、食料品を買う人 - 食事を一緒に取る人 等	生活者アンケート調査
	食事の内容	- 朝食／昼食／夕食の内容 - 中食・外食の利用状況 - 食事の際に心掛けていること／課題に思っていること - 理想の食事／理想の食事ができない原因	

【参考資料】生活者アンケート「mif」について

- mifは、20歳から69歳の全国30,000人の生活者に対し、生活価値観や食・健康・美容等を含む約2,000に及ぶ設問からなる価値観や消費行動について、2011年6月以降、毎年6月に定期的調査を行い、それをデータベース化・分析するシステムである。
- 定点設問のほか、個別の設問を設定し、30,000人のモニターの意識を把握することが可能である。
- 本調査においては、同一のモニターに、同じタイミングで「食生活や食料消費の実態の調査」及び「教育ファームアンケートについて」を実施する。

- モニター基本情報（定点データ）としては「基本属性」及び「価値観・生活全般に対する考え方」「食と健康に対する考え方」などがある。
- 基本情報に加え、個別の設問として以下のアンケートを実施。
 - ・ 「食生活や食料消費の実態の調査」（資料2-3）
 - ・ 「教育ファームアンケートについて」（資料3）
- 「食生活や食料消費の実態の調査」「教育ファームアンケート」ともに、モニター基本情報とのクロス集計が可能。

mif「生活者予測システム」



<https://mif.mri.co.jp/>